

精神保健福祉援助演習 C	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	4年
科目コード	CW5159	担当教員	阿部 正孝／志村 祐子／ 大和田 誠子／八巻 幹夫ほか

※この科目は平成24年度以降入学者のみが受講できる科目です。

※実習履修者のスクーリングは下記のとおり「精保実習指導 B」との組み合わせにより開講されます。実習免除者は「精保演習 C」のみ2日間8コマで開講されます（実習免除者向けの演習は年1回のみ開講となりますので日程調整にご注意ください）。

■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ

◆実習履修者（精保演習 C：8コマ・精保実習指導 B：7コマ）

※精保実習 B 事後指導までの流れ

精保実習 B 事前指導（精保演習 C－1＋精保実習指導 B－1）

精保実習 B 受講年度の5・6月頃開講

1日め 精保実習指導 B－1（3コマ）

2日め 精保演習 C－1（4コマ）

↓

精保実習 B（医療機関実習）

※7/1～12/25の期間に12日間かつ90時間

↓

精保実習 B 事後指導（精保演習 C－2＋精保実習指導 B－2）

※精保実習 B 受講年度の9・11・2月頃開講

1日め 精保実習指導 B－2（4コマ）

2日め 精保演習 C－2（4コマ）

◆実習免除者（精保演習 C：8コマ）

※5月頃開講（4月入学生は精保演習 B 受講の次年度、10月生は同年度）

1日め 精保演習 C（4コマ）

2日め 精保演習 C（4コマ）

■科目の内容

精神保健福祉援助実習では配属された機関において、どのようなサービスを提供していて、近隣にどのような関係機関があり、連携が図られているのかが理解されなければなりません。

具体的事例（生活のしづらさ、就労問題、低所得者、チームアプローチ等）を通して精神保健福祉援助技術の専門性の理解を図ります。

■到達目標

- 1) 実習体験を通し感じたこと、学んだことを言語化できる。
- 2) 支援者として何が求められているかが説明できる。

- 3) 本人のニーズ、家族のニーズ等の把握とアセスメント、支援計画が立てられる。
- 4) 様々な機関とのネットワーキングの必要性が説明できる。
- 5) 病気の理解、職場との関係構築、様々な制度について説明できる。
- 6) ピアサポートの有効性・現状が理解でき、PSW としての関わり方が説明できる。
- 7) 貧困・低所得者実態が把握でき、活用できる各種制度が説明できる。
- 8) 相談援助に求められている知識と技術についての自己評価ができる。
- 9) 実習体験を客観的に評価できる。
- 10) チームアプローチの理解、病院ワーカーの役割等について事例を通して理解して説明できる。

■教科書（「■精保演習A・B」と共通）

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版 精神保健福祉士養成セミナー 7 精神保健福祉援助演習 [基礎][専門]』へるす出版、2014年

（最近の教科書変更時期）2014年 4月

※ 「■精保演習A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「■精保演習A・B」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』3章をご参照ください。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	退院支援・地域移行 (実践編 第2章II)	地域移行支援計画、サービス等利用計画について理解する。 キーワード：地域移行支援計画、サービス等利用計画	「精神保健福祉援助演習B」の在宅学習のポイント第6回の教科書の事例から、地域移行支援、サービス等利用の各計画について（表2-1）地域移行支援計画、（表2-2）「サービス等利用計画 - 退院後」を整理する。
2	地域生活支援 (実践編 第2章III)	精神障害者が「地域で暮らしていく」ために必要な支援について理解する。 キーワード：就労継続支援（A型・B型）事業所、リカバリー	「精神保健福祉援助演習B」の在宅学習のポイント第7回の教科書の事例から、Cさんの「ジェノグラム」を作成し、想像を元にCさんの生活史を作成し、どのような支援が必要か整理する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	就労・雇用① (実践編 第2章VIII)	精神障害者の就労支援を目的とした機関・制度・サービスについて理解する。 キーワード：ハローワーク、障害者職業センター、障害者就労支援センター、ジョブコーチ、就労移行支援事業、就労継続支援事業（A型・B型）、個別就労支援（IPS）	教科書の「1 事例のねらい」の3）の用語および「個別就労支援（IPS）」について整理する。
4	就労・雇用② (実践編 第2章VIII)	精神障害者の就労に向けた支援について理解する。 キーワード：ハローワーク、障害者職業センター、障害者就労支援センター、ジョブコーチ、就労移行支援事業、就労継続支援事業（A型・B型）、個別就労支援（IPS）	教科書の「1 事例のねらい」の3）および用語の意味を理解した上で、教科書の事例から、本人の主体性を尊重した就労支援の展開について整理する。
5	ホームレス① (実践編 第2章IX)	ホームレスの実態、ホームレス自立支援法について理解する。 キーワード：ホームレス、貧困、ホームレス自立支援法	教科書のホームレスの定義、ホームレス自立支援法について整理する。
6	ホームレス② (実践編 第2章IX)	ホームレス状態にある人や社会生活に困難を抱えている人々に対するソーシャルワークの必要性について学ぶ。 キーワード：ホームレス、貧困、ホームレス自立支援法	教科書のホームレスの定義等を理解した上で、教科書の事例から、ホームレス状態にある人のニーズや社会資源との結びつけについて整理する。
7	危機状態にある精神障害者への支援① (実践編 第2章XI)	精神科病院への入院形態について理解する。 キーワード：精神保健福祉法、任意入院、医療保護入院、措置入院	教科書の「2）精神保健福祉法の入院形態」から精神科病院に入院する際の入院形態・制度にどのようなものがあるのか整理する。
8	危機状態にある精神障害者への支援② (実践編 第2章XI)	精神科医療における多種連携と危機介入についてのソーシャルワーク実践について理解する。 キーワード：危機的状況、危機介入、任意入院、医療保護入院、措置入院	教科書の用語や精神科病院に入院する際の入院制度を理解した上で、教科書の事例から精神科急性期治療における精神保健福祉士の役割について整理する。
9	ピアサポート① (実践編 第2章XII)	自助グループ、ピアサポートについて理解する。 キーワード：自助グループ（セルフヘルプ・グループ）、アルコールクス・アノニマス（AA）、ピアサポートグループ、当事者運営サービス、プロシューマー（ピアサポーター、ピアスタッフ、ピアスペシャリスト等）	教科書の用語について整理する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	ピアサポート② (実践編 第2章 XII)	<p>自助グループ、ピアサポート活動の意義および特性、精神保健福祉士のかかわりや役割について理解する。</p> <p>キーワード：自助グループ（セルフヘルプ・グループ）、アルコールクス・アノニマス（AA）、ピアサポートグループ、当事者運営サービス、プロシューマー（ピアサポーター、ピアスタッフ、ピアスペシャリスト等）、地域移行推進員</p>	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から自助グループおよびピアサポート活動における精神保健福祉士の役割について整理する。
11	サービス評価① (実践編 第3章 V -1) 巻末の [資料]	<p>ACT フィデリティ評価マニュアルを例に、サービス評価の目的と必要性を具体的に理解する。</p> <p>キーワード：ACT（包括型地域生活支援）、回転ドア現象、アウトリーチ、ストレングス（視点）、ストレングスモデル</p>	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例からサービス評価の目的、種類、流れについて整理する。
12	サービス評価② (実践編 第3章 V -1) 巻末の [資料]	<p>ACT フィデリティ評価マニュアルを例に、サービス評価の目的と必要性を具体的に理解する。</p> <p>キーワード：ACT フィデリティ評価マニュアル</p>	教科書巻末の [資料] の ACT フィデリティ評価マニュアルを詳しく読みながら、何がどのように評価されるのか整理する。
13	地域福祉計画① (実践編 第3章 V -2)	<p>「社会福祉基礎構造改革」「地域移行支援」「地域定着支援」について理解する。</p> <p>キーワード：社会福祉基礎構造改革、地域移行支援、地域定着支援</p>	教科書の「社会福祉基礎構造改革」「地域移行支援」「地域定着支援」の概要について整理する。
14	地域福祉計画② (実践編 第3章 V -2)	<p>市町村における地域福祉計画作成の仕組みについて理解する。</p> <p>キーワード：社会福祉基礎構造改革</p>	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から当事者参加の地域福祉計画作成について整理する。
15	まとめ—実習を体験して (実践編 第4章 I・II・III)	<p>精神保健福祉援助実習の体験を踏まえ、精神保健福祉関係機関・施設の機能と精神保健福祉士の支援のあり方について理解する。</p> <p>キーワード：生活支援の視点、かかわりの視点、アセスメントの視点、人と状況の全体性の視点、自己決定を尊重して促す原則、権利擁護の視点、人と状況の全体性</p>	教科書の内容をしっかりと覚えてから、精神保健福祉援助実習における自身の体験を踏まえ、精神保健福祉関係機関・施設の機能と精神保健福祉士の支援のあり方について整理する。

■レポート課題

1 単位め	※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出） 精神保健福祉専門職の援助を必要とする利用者は、その多くが悲しみや不安の中にあると考えられています。精神保健福祉問題（うつ病、アルコール問題、認知症、自殺等からいずれか一つ以上を選択）に関してあなたの考えを述べてください。 精神保健福祉士として、その課題に対して、今後どのような支援を展開していくのか、社会資源の活用を考慮しながら論じてください。
2 単位め	※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出） 社会的障壁（バリア）は、時として当事者の生きる気力や主体性を削いでしまいます。どのようなバリアがあるか考え、それらを取り除いていく支援・援助はどのように行われることが求められているか、精保実習 A・B での経験や自身の実践事例から述べてください。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

広義の精神保健福祉の対象を把握し、人間のライフサイクルに避けることのできない精神保健福祉問題を取り上げています。急激な社会変動（都市化、家庭の変容、地域社会の変容、情報社会）が人々に与えている影響の視点から述べるとよろしいです。

2 単位め
アドバイス

精神保健福祉士は地域の人や家族の人との関係の温めなおし、条件整備、制度や政策の転換を図る対応も模索しなければなりません。例えば病気や障害を背負うという困難な状況におかれても、人が人らしく生活をしていくために安全、安心を提供することが重要です。本人主体、リカバリーなどをキーワードにして考察してください。

■参考図書

- 1) 久門道利他著『スタートライン社会学』弘文堂、2005年
- 2) マーク・レーガン著、前田ケイ訳『リカバリーへの道』金剛出版、2005年

■レポートの提出方法

- 1) 1 単位につき、1 冊のレポート用紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長4,000 字程度まで記入していただいても結構です。
 - ・手書き用レポート用紙→p.16まで使用可。
 - ・パソコン印字用レポート用紙→左右40字×30行×2～4枚まで可。
- 3) 教員名は記入しないでください。
- 4) 各レポートは所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』p.45～48または『With』参照）。

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目はスクーリングの受講が必ず必要になります（仙台でのみ開講）。
- ・1 クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。

- ・受講許可証・納入依頼書は、各判定日以降に発送いたします。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』p.45～48または『With』を参照ください。
- ・申込は、『With』巻末の申込ハガキまたは用紙を郵送してください。希望受講日は必ず第二希望まで○を付けてください（第一希望と同一は不可）。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の、受講日程の変更は受け付けいたしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。

■「精保演習 C」スクーリング受講条件

- ・『学習の手引き 2012-2016年度版』3章V-3「演習・実習指導スクーリング・実習の受講条件」【条件5】参照
- ・『学習の手引き 2012-2016年度版』3章V-3「演習・実習指導スクーリング・実習の受講条件」【条件8】参照

■「精保演習 C」スクーリング受講・単位認定について

※平成24年度以降入学の実習履修・免除者すべてに適用

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

「精保演習C」の受講内容・成績によって次年度実習受講の可否が判定されます。

●単位認定

1単位めレポート+「精保演習C」スクーリング（スクーリング試験は実施しません）+2単位めレポート等で総合的に単位認定いたします（p.231「科目の評価基準」参照）。

2単位めレポートが再提出の場合は、再提出評価となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2単位めレポートの提出締め切り後に郵送で行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、1単位め合格済みレポートについても無効となります。次回以降の「精保演習C」を申込み際、所定の期日までに再度「精保演習C」の1単位めレポート提出および申込みを行ってください。

■科目の評価基準

演習内容（60%）+演習レポート（20%）+選考試験（面接）（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。